

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 1 月 23 日

事業所名 寺子屋オレンジキッズ

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	5	0	・現場を見てその都度職員同士が声掛けを行っている。・特性に応じた環境設定を行っている。・訓練、学習スペースの空間の配置。
	2	職員の配置数は適切である	3	3	0	・規定以上の人数を必ず配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	0	0	・施設内はなるべく段差を無くしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2	2	・目標設定の振り返り等は毎日のミーティングを通して必ず行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	2	0	・毎年行い、意見を考慮しながら改善に繋げていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	2	1	・毎年行っている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4	1	・現在では積極的に取り入れていないが、その代わりに研修やミーティングを密に行いながら、評価の正確性を高めている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2	0	・機会があれば参加するように心掛けている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0	・計画をする前に、担当者からの意見と保護者の方からの意見を総合的に見て作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2	3	・アセスメントツールはあえて取り入れていないが、研修やミーティングを密に行いながら、評価の正確性を高めている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	0	・個別で考えている面もあるが、個別で考えた内容をチームで発表して利用者に寄り添えるように立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	0	・まち日のミーティングで行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	3	0	・今年は新型コロナの為、行う事は出来なかったが、長期休暇等の際には行事を毎年企画している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0	・個別で行うべき内容、集団で行うべき内容を分けて行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0	・必ず行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	2	・送迎があり、職員が終了時にそろっていない為、全員では出来ていないが、その代わりに次の日のミーティングで課題に出して課題点等がある際には必ず解決策を考えるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	・毎日必ず行っている。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1	0	・モニタリング時以外にも、計画の見直しが必要になる際には、ミーティング等の時に議題に挙げている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	2	0	・それ以外にも、研修で学んだ事等を取り入れている。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1	0	・管理責任者の他にも、担当の支援員と一緒に参加し、現状行っている事をより正確に伝えている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	0	・必ず行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	5	1	・現在、医療的ケアが必要とされるお子さまが利用者の中にいない為、行ってはいないが、必要であれば行う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	4	1	・現在は、行っている回数は少ないが必要であれば行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	2	3	・行うようにしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	2	・その他にも、様々な研修に参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	4	・現在はあまり取り入れていないが、保護者の方からの要望が多くあれば行う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	2	・あまり積極的には参加していないが、必要があれば参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	2	0	・面談時以外にも、送迎時・ノート等を利用して行っている。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	1	・ペア・トレーニングまでは行ってはいないが、送迎時やノート等で相談された場合には、必ず助言を行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	2	0	・契約時に必ず行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2	0	・面談時、送迎時、ノート等を利用して行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	2	4	・現在は、あえて取り入れていないが、要望が多ければ取り入れる。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	1	・苦情や相談等があった場合には必ず職員で情報を共有して、解決策を出し、迅速に対応する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	3	0	・長期休暇等の際には行っている。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	0	・契約時に必ず説明し、また職員にも周知してある。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0	・送迎時、ノート等を利用して情報交換を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	2	4	・現在では、あまり取り入れていないが要望が多ければ取り入れ

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	0	・マニュアルを作成して、契約時に必ず保護者の方に説明を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0	・毎年、長期休暇等を利用して行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	4	0	・研修のモチベーションを設けている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	3	0	・現在は、身体拘束が必要な利用者の方がいない為、行う機会は無い為計画にはあえて記載していないが必要であれば行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	0	・必ず対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	0	・必ず行っている。